

Vol.2

がやチラ

ちょっと面白いコミュニティスペースでの毎日



毎週火曜日になると、がやChill.に農家さんから野菜が届きます。

その日の朝、箱を開けるのが私はとても楽しみです。

玉ねぎやじゃがいも、きゅうり、なすといった馴染みのある野菜が並ぶこともあれば、「これは何だろう？」と思うような野菜が入っていることもあります。

コールラビ。

スイスチャード。

名前だけ聞くと外国の野菜のようですが、実際に手に取ってみると、それぞれに個性的な形や色をしていて面白いのです。お客さんから「これ、どうやって食べるの？」と聞かれることもあります。そんな時は、みんなで調べたり、農家さんに聞いたりしながら食べ方を覚えます。

「炒めても美味しいらしいよ」

「サラダでも食べられるんだって」

そんな会話が自然と始まります。便利な時代になりました。スーパーに行けば一年中さまざまな野菜が並んでいます。昔なら冬にしか食べられなかったもの、夏にしか見られなかったものも、今では季節を問わず手に入ることがあります。それはとてもありがたいことです。

一方で、私たちは季節を感じる機会を少しずつ失っているのかもしれない、とも思います。今が旬なのは何だろう。この野菜はどんな時期に育つのだろう。

そんなことを考えなくても生活できるようになりました。だからこそ、農家さんから直接届く野菜を見ると、「ああ、今はこういう季節なんだな」と感じます。旬の野菜は、その季節の手紙のようなものです。

自然が今どんな状態なのかを、静かに教えてくれる気がします。

6月になると、がやChill.では毎年恒例の「梅仕事」が始まります。青梅が店頭に並び始めると、なんだか落ち着かなくなります。今年もそろそろ仕込まなければ。そんな気持ちになります。

梅酒や梅シロップを作る人もいるでしょうし、梅干しを漬ける人もいるでしょう。

私は紫蘇ジュースを作ったり、夏味噌を仕込んだりします。これは特別なことではありません。でも、こうした手仕事には不思議な魅力があります。

時間をかけて季節と向き合うことで、「今年も夏が来るんだな」と実感できるのです。

子どもの頃は、季節の移り変わりがもっとゆっくりだったような気がします。春になれば桜が咲き、少しずつ暖かくなり、梅雨が来て、暑い夏になる。秋には涼しい風が吹き、冬にはしっかりと寒くなる。もちろん昔を美化している部分もあるかもしれませんが。

オーナー吉田りこのSNSたち



今すぐ
チェック！

それでも最近は、「春と秋が短くなったな」と感じるが増えました。5月なのに真夏のような暑さの日がある。10月になっても半袖で過ごせる日がある。逆に急に寒くなって慌てて衣替えをする。そんなことが珍しくなくなりました。

毎年のように「今年の夏は過去最高の暑さ」という言葉を聞いている気がします。そのたびに思うのです。昔の6月って、こんなに暑かっただろうか？

もちろん気候は毎年変わりますし、個人の記憶は曖昧です。だから単純に昔と今を比較することはできません。それでも、季節の境目が少しずつ分りにくくなっているような感覚は、多くの人が持っているのではないのでしょうか。だからこそ私は、短い期間でも四季を感じていたいと思います。

旬の野菜を食べること。梅を漬けること。季節の花を眺めること。その時期にしかできないことを楽しむこと。

それは単なる趣味ではなく、自然とのつながり確かめる行為なのかもしれません。そして、こうしたことを考えていると、どうしても「地球温暖化」という言葉に行き着きます。ニュースで頻りに耳にする、異常気象、猛暑、豪雨、農作物への影響。けれど正直に言えば、私は環境問題の専門家ではありません。二酸化炭素がどうで、気温上昇がどうで、と詳しく説明できるわけではありません。ただ、日々の暮らしの中で感じる違和感があります。

農家さんが「今年は暑さで野菜が大変だった」と話すこと。暑さで外に出られない子どもたちが増えていること。電気代を気にしながらも、エアコンを止められないこと。そうした出来事は、すべて私たちの生活とつながっています。

そして私は思うのです。社会問題というのは、決して遠くにあるものではないのだと。政治というと、選挙や議会や政党の話だと思われがちです。もちろんそれも大切です。

けれど本当は、毎日の暮らしの中にこそ政治があります。野菜の値段が上がること。猛暑で体調を崩すこと。農家さんが作り続けられるか心配すること。そうしたことも、社会のあり方と深く結びついています。コールラビやスイスチャードを見て季節を感じる。梅仕事をしながら夏の訪れを知ること。そして、「昔と何か違うな」と感じる。

そんな日常の小さな気づきこそが、社会を考える入り口なのかもしれません。大きな政策や難しい言葉を知らなくてもいい。まずは、自分の暮らしの中で起きていることに目を向ける。なぜだろう、と考える。

私は、そんなところから社会とのつながりが始まるのだと思っています。

今年も梅を漬けながら、旬の野菜を眺めながら、そんなことを考えています。

ガヤChill. PICK UP : 6月のテーマ：まちづくり


先日、県の基金に応募しましたが…ごんねん。うーん。薄くワイドな企画じゃ助からない地元の子らが、自力で馴染めるようになってほしいだけなのに。大手企業が母体じゃないと応募は難しいのかなー。日常で「なんだかなあ」と思ったり、小耳にはさんだことをちょっと調べてみたらモヤモヤしてしまったり。ニュースをみながら何か解決する方法が「あればいいのにね」と食卓で口に出す感覚。そんな取りとめのないお話しをしに、ぜひガヤチルへお越しください。

★火曜日：無&減農薬の美味やさい入荷★毎月の朝市では、お楽しみ試食をお出ししています★常設：ハンドメイド小物を販売中★席の時間貸し、キッチン付きレンタルルームは持ち込みOK



コミュニティ Cafe?!

ナニソレおいしい？そう返す方は少なくないはず（偏見）。何をすると？誰が使うの？そこに行ったら楽しい？最近まで同じ疑問を抱いていた店長がゆるっとお伝えします。

越谷市大里226-1 1F 
コミュニティカフェ ガヤChill.